

が江戸時代ごろから実施されていたと考えられます。

下志筑・中志筑・上稲吉・中佐谷・岩坪・西成井・穴倉・安食・柏崎などほとんどの地区で釈迦



青銅製釈迦誕生仏
(穴倉 最勝寺)

※郷土資料館ホールに
5月上旬まで展示中

釈迦が旧暦の四月八日に生まれたことから、それを祝い実施される灌仏会という行事があります。

日本では、さまざまな草花で飾る花御堂内に釈迦誕生仏が安置され、別名「花まつり」ともよばれます。釈迦が誕生する際に天から香り高い水が降り注いだとされることから、参拝者は釈迦如来像に甘茶を注ぎます。

かすみがうら市内の寺院や小堂には、灌仏会用に造られた青銅製誕生仏を安置しているところが多く、活発な「灌仏会」が江戸時代ごろから実施されていたと考えられます。

この灌仏会は、市内ではみられなくなっていました。現在でも石岡市の国分寺では盛大に行なわれ、多くの参拝者で賑わいをみせています。

釈迦誕生の祝行事

別名を「花まつり」

灌仏会

4月8日



★平成19年度は、市内で行なわれていた年中行事を紹介していきます★

教育委員会

学校だより

「かすみがうら市の学校教育」 ～教育的ニーズにこたえるために～

かすみがうら市教育委員会
学校教育課 教育指導室
☎内線 2400



かすみがうら市には十三の小学校と四つの中学校があり、各学校では、

- 1 確かな学力の向上
- 2 豊かな心の育成
- 3 健やかな体の育成

の実現に向けてさまざまな教育活動を展開しています。市教育委員会では市内三千七百余人の児童生徒のことを第一に考え、たくましく生きていくために必要な資質や能力を育てるために、次のような人的整備をしています。

■学力の向上のために

○各校では、従来の一斉授業に加えて、一つの学級を二人の教師が協力して指導したり、習熟度別や学習課題別に弾力的に学習集団を分けて指導したり、専門的知識を有する方を外部講師として招いたりして、児童生徒が学習内容をより効率的に身につけられるような授業を展開しています。

そのため、県で決められた教員の定数以外に、小中学校に加配教員十三人を配置したり、社会人講師を先生として活用したりするなどして、個に応じた指導の充実に努めています。

また、小学校一・二年生においては、学年の児童数が百五人を越える場合は、四十人学級でなく、三十五人学級に編成し、教師の目がより届くようにしています。また、三十五人を超える

場合は、その学級に非常勤講師一人を配置しています。

加配教員の配置されていない小中学校十一校には、ティームティーチング（ＴＴ）などの非常勤講師を一人ずつ配置し、国語、算数、英語などの教科を中心に、きめ細やかな指導に努めています。

○複式学級がある学校においては、加配教員に加えて、市独自で「教育活動指導員」を一人配置し、より効果的な指導に努めています。

■生徒指導の総合的推進のために

○文部科学省「スクールカウンセラー配置事業」により、臨床心理士の資格があるスクールカウンセラーを全中学校に配置し、生徒や保護者の教育相談にあたっています。

○文部科学省「子どもと親の相談員等活用事業」により、相談員を配置し、学校・保護者・関係機関と連携した児童や保護者の教育相談により、小学校における不登校の改善、未然防止にあたっています。

○かすみがうら市教育支援センターを継続して設置し、相談員五人を配置し、教育相談の拠点として次の活動を充実させます。

・児童生徒および保護者の教育相談（電

話相談、来所相談、就学相談）

なお、電話相談は、二十四時間留守番電話で対応しています。特に、いじめ問題に関しては、教育指導室内に「いじめホットライン」を設置し、留守番電話対応により、多様な相談に対応します。

・何らかの事情で、登校できないという児童生徒のために、適応指導教室「ひたちの広場」を開設し、指導員による補充学習や体験活動を通して登校に向けての支援を行なっています。

「ひたちの広場」

第1常陸野八公園 管理棟内二階
かすみがうら市教育支援センター

☎0299・59・1230

いじめホットライン

☎029・897・0996

■障害のある児童生徒のため

○心身に障害のある児童生徒が在籍する学校に、学校介助員を配置し、児童生徒がより充実した学校生活が送れるよう、活動支援にあたります。

○障害のある幼児・児童・生徒の就学相談については、月一回専門の相談員による教育相談を実施します。予定表は、各幼稚園、保育所、各小中学校などにあります。

文芸ひろば

俳句

花の種蒔きて小石を標とす
山びこの里に生れて蓬摘む
廃線の告知の駅舎地虫出づ
蝌蚪生る飛行機雲は一直線
堤防の釣り人数多風光る
対岸に牛久大仏風光る
乾きぬし土にひと雨風光る
落雲雀忍者がいに消え居りぬ
来客の気づく初音や侘住居
山桜眼下見おろし何思ふ

短歌

やわらかき春の陽射しに咲くすみれ五号の鉢も大地なるべし
葉を落し冬日浴びつつ林の木命潜めて春を待つらん
落葉とき歎喜する如く転び来てここよと溜る庭のくぼみに
年の瀬の夜来の大雨過ぎ去りて澄みわたる空の風の清さよ
爺ちゃんもお家へ帰ろうよ孫の片言夢に見るなり
シクラメン花の終りの束の間を乱るるままに咲きて陽に透く
失明の危機と宣告されし夜家族の笑顔脳裏に刻む
親竹を抜きて伸びたる若竹の梢しなやかに風になびきおり
聴えぬとわかっていても補聴器を藁をも掴む気にて買い替う

遠藤富重（下稲吉）
大西周（稲吉東）
田中好子（下稲吉）
中島良平（稲吉東）
坂入昭吉（ピン天神）
小室貞江（西成井）
小室和則（西成井）
佐谷戸撰子（東野寺）
石塚榮（西野寺）

丹部瑛雄（下稲吉）
かのう栄（穴倉）
成島利男（下稲吉）
枝力（稲吉）
石塚文子（牛渡下郷）
小松崎正栄（戸崎）
車田きみ（大和田）
福田宏通（御殿）
塚田甲子郎（下稲吉）
宮本てるみ（横堀）